

令和 6 年度 新潟市精神保健福祉審議会 会議概要

開催日時	令和 7 年 1 月 3 0 日（木） 午後 2 時～午後 4 時
会 場	新潟市総合保健医療センター 2 階 講堂
出席委員	秋庭委員、五十嵐委員、栗原委員、染矢委員、坪谷委員、藤沢委員、村山委員、山田委員、湯川委員、横堀委員、若穂岡委員、渡邊委員 (出席 1 2 名, 欠席 3 名)
事 務 局	保健衛生部長、保健所長、こころの健康センター所長、こころの健康センター所長補佐、こころの健康センターいのちの支援室長、こころの健康センター係長、障がい福祉課長
傍 聴 者	なし
内 容	【議事】 地域移行・地域定着支援事業について ○事務局より資料 1・資料 1－2 に基づき、精神障がい者地域移行・地域定着支援事業について説明をした。 ○委員からの意見・質問 ＜若穂岡委員＞ 河渡病院では、地域移行機能強化病棟を作り、地域移行を進めてきたが、地域定着が難しい。この部分について、外部との連携を強化していきたいと考えている。 ＜坪谷委員＞ 企画調査班の中で、新潟市に居住する精神障がい者の地域生活に関する実態調査を実施した。分析はまだやっていないが、自宅やアパートで生活している人が多数で、グループホーム利用者は少数だった。 ⇒地域移行先は様々だが、どうしても病状が悪化し、再入院するということはある。グループホーム職員に対してもカンファレンスを開くなど、個別のカンファレンス、検討会や相談を続けながら取り組んでいきたいと考えている。 ＜横堀委員＞ 精神科病院を退院後の居場所について、地域活動支援センターにも注目をしていただきたい。 自分の役割や価値を認めてくれるところだと思うので、地域活動支援センターについて改めてその価値を考えてもらいたい。 ＜藤沢委員＞ 入院者訪問支援事業について、ピアサポーターと専門職の 2 人 1 組の派遣

を予定されているが、「専門職」の属性をどのように予定しているか。
⇒「専門職」の属性に決まりはない。

【報告】

(1) その他の精神保健福祉施策について

○資料2に基づき、依存症対策事業、ひきこもり支援事業、精神保健福祉相談等相談事業、措置入院、精神科救急医療システム事業、精神医療審査会・判定会議、普及啓発・教育研修、精神保健福祉施策の概要（福祉部障がい福祉課分）、精神保健福祉関係事業歳出予算、新潟市医療計画について説明を行った。

○委員からの意見・質問

<若穂岡委員>

依存症関連問題に関する来所相談件数の中で、アルコールに関する相談の件数がこの2年で減ってきている印象だが、現場での感想や意見はあるか。
⇒こちらの体制等を変えていないので、分析はできていないが、インターネットの情報で自己診断をするということが進んでいるのかもしれない。平成30年度以降やってきた普及啓発に、ご家族も含めもっと幅広く取り組んでいく必要性を強く感じている。

<染矢会長>

新潟市の人口規模に対して、精神保健福祉相談及び措置入院件数は全国的にみると、どのあたりなのかという視点で教えてほしい。
⇒相談事業については、都道府県・政令指定都市によって取組が違うため、比較が難しい。措置入院に関しても、比較は難しいが、県内で言えば新潟市は人口の割には多くなっている。

(2) 自殺総合対策について

○資料3に基づき、自殺総合対策について説明を行った。

○委員からの意見・質問

<染矢会長>

「寄り添い支援事業」について、支援を行わなかった集団と比較することで、事業による効果がどうだったのかの検討が必要ではないか。
⇒比較が難しいが、平成21年頃の救急搬送のフォローデータと今後比べていきたい。白書等では、1割弱の方が再企図するという統計もある。そのことも踏まえ、効果について整理をしていきたい。

令和２年度には自殺が少なかったが、その後新型コロナウイルス感染症発生から２年目（令和３年度）からは増えているが、全国的な動きと比較すると違いはあるのか。

⇒全国的な動きとは大きな違いはないが、全国より１年遅れて自殺率が増加に転じている。

<村山委員>

コロナ禍の時に、人とつながれないことがつらいという相談があった。電話相談をすることで解決するわけではないが、少しほっとする場所があるなど、人とつながれる場所があることが、自殺対策に影響があるのだと感じた。精神疾患がある方も、「新潟いのちの電話」に多くつながっており、医療機関といのちの電話以外にもつながれるところがあると良いと思う。

（３）精神科病院虐待防止対策事業について

○資料４に基づき、精神科病院虐待防止対策事業について説明を行った。

○委員からの意見・質問

<渡邊委員>

現場で働く方々が、働く中で苦しさを抱えた時に、助けを求められる環境が整備されることにつながる制度であってほしい。

【その他】

○委員からの意見・質問

<渡邊委員>

児童も含め、トラウマケアや治療が受けられる受け皿が増え、治療の選択肢も増えてきているように感じる。引き続き、トラウマケアが進んでいくことを願っている。

<湯川委員>

昨年、診療所協会を設置し、そこでは措置入院や救急などの体制についても、診療所の医師として、どのように貢献できるかという話し合いをした。システムチェックに連絡を取れるよう検討を進めていきたい。

○次年度の日程については、特に諮問すべきことがない限り、事務局より連絡をすることとした。